

科目名	公衆衛生倫理学	code number : ID 201	必修	1 単位
-----	---------	-------------------------	----	------

科目責任者	中尾 睦宏 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	水曜 4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

公衆衛生領域の政策決定や臨床現場で必要となる倫理的判断の基礎について学ぶ。ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言といった生命倫理と医の倫理に関する規範の意味やその歴史的流れをふまえながら、患者の基本的権利について理解する。真実の告知、インフォームド・コンセント、パターナリズム、死の受容、安楽死、尊厳死などの具体的問題に対して、事例を通じた討論を行う。さらに医師法や医療法といった関連する医事法制を整理し、守秘義務、応召義務、医学的無益性、医療資源の配分、メタ倫理といった様々な倫理的問題についても学ぶ。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 保健医療の現場において意思決定を行う際に必要な医療倫理の基本的な知識・考え方を身に付ける。

【行動目標 (SBO)】

1. 倫理的観点から対応が困難と想定される事例において、自分の考えを述べることができる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・上記到達目標を確認するレポートやディスカッションを課す。
講義の課題(50%)、レポート(30%)、ディスカッションの内容(20%)

4. 教科書・テキスト

- ・特定のテキストは設けない。必要に応じて資料を配布する。

5. 参考書

- ・赤林 朗・児玉 聡 編
『入門・医療倫理III 公衆衛生倫理』 勁草書房 2015年

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。
- ・講義ごとに2時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

公衆衛生倫理学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/12(水)	4	中尾 睦宏 教授	医療・公衆衛生倫理学総論 医療倫理に関する歴史的背景を中心に、概略について学ぶ。
2	4/19(水)	4	瀧本 禎之 講師(非)	医療従事者・患者関係 医療従事者が患者関係を築く上で必要となる基本的事項について学ぶ。
3	4/26(水)	4	井上まり子 准教授	公衆衛生倫理(1) 公衆衛生倫理学の沿革、主要な倫理的課題の事例の紹介、公衆衛生倫理学のアプローチ方法について学ぶ。
4	5/10(水)	4	井上まり子 准教授	公衆衛生倫理(2) パターンリズム、個人の自由と集団の利益など、具体的な事例をもとに政治哲学の理論を紹介する。理解を深めるためケーススタディを用いて討論する。
5	5/17(水)	4	中澤 栄輔 講師(非)	インフォームド・コンセント 患者の権利、インフォームドコンセントについて、その歴史的背景、法的根拠などについて学ぶ。
6	5/24(水)	4	中澤 栄輔 講師(非)	ケース・アプローチ 臨床現場で遭遇する具体的な倫理的問題を分析する手法を学ぶ。
7	5/31(水)	4	中尾 睦宏 教授	利益相反とオーサーシップ 公衆衛生学専門家として利益相反や客観的な視点とは何かを討論する。またPublicationの真実性や透明性、公平性といった倫理的要素についても学ぶ。
8	6/7(水)	4	福田 吉治 教授	公衆衛生専門職の研究倫理の実践 医学的研究を行うに当たって必要な倫理的知識、具体的な倫理申請の手続きなどについて学ぶ。

科目名	医学基礎・臨床医学入門	code number : ID 101	選択必修	2 単位
-----	-------------	-------------------------	------	------

科目責任者	山本 秀樹 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期	曜日・時限	月曜 1,2時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

臨床医学の入門となる必須事項を適切に理解するための講義を行う。医療系出身者以外の学生への配慮から、まず人体の構造と機能について理解するため、細胞レベルから臓器レベルに至るまでの解剖学、生化学、生理学など基礎医学全般を学ぶ。そうした基礎医学の学習の中で「病気」と「健康」を分ける根拠は何であるか、個人と集団それぞれの見地からアプローチする。臨床医学は、消化器、循環器、呼吸器、腎・泌尿器、神経・筋、内分泌・代謝、メンタルヘルス、免疫・アレルギー、感染症、血液、悪性新生物、中毒の各分野に分け、各種疾患を理解するための基本的事項を中心として、病気の成り立ちを理解するため重要な病態生理、病気の診断に必要な各種検査の原理や意義、最新の治療技術などについて学ぶ。理解を助けるためにビデオ学習を積極的に取り入れる。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 公衆衛生の実務者となるうえで必要とされる必要最小限の医学・生物学的知識を包括的に理解すること。
2. 公衆衛生の実践の場で必要となる基本的な疾患の病因・病態を理解する。

【行動目標 (SBO)】

1. 獲得した医学・生物学的知識を基に保健医療専門家と共に公衆衛生活動ができるようになる。
2. 公衆衛生上の課題を一般市民にわかりやすく説明することが出来る。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 最終試験(70%)
- (2) 課題レポート(20%)
- (3) 講義での参加度(10%)

上記、評価にて合格基準に達しない場合には再試験/レポート再提出を別途指示する。その場合、評価は70点未満とする。

4. 教科書・テキスト

- ・医学概論 (コメディカルのための専門基礎分野テキスト) [単行本] 北村 論 (著)
出版社: 中外医学社; 5版

5. 参考書

- ・適時、担当教員より講義時に紹介する。
- ・図書館に人体解剖/生理、病態入門のビデオ教材を用意しているので利用すること。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・テキストの各項目と事前配布資料(ある場合)を講義前に必ず熟読してくること。
- ・講義ごとに1時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・医療系の国家資格を有しない非医療系の学生のみ履修すること。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

医学基礎・臨床医学入門

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/17(月)	1	山本 秀樹 教授	医学の使命と歴史
2	4/17(月)	2	山本 秀樹 教授	人の生と死〔脳死を含む〕および倫理問題
3	4/24(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 人体の発生〔受精卵から誕生〕
4	4/24(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 総論—主要症状とその原因
5	5/1(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 呼吸器系
6	5/1(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 呼吸器疾患・中毒性疾患
7	5/8(月)	1	谷原 真一 教授	人体の構造と機能: 細胞・人体の構成(骨・筋肉)
8	5/8(月)	2	谷原 真一 教授	臨床医学: 骨/筋肉〔外傷と疾患〕
9	5/15(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 血液/造血系
10	5/15(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 血液疾患
11	5/22(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 感染・免疫系・遺伝
12	5/22(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 感染・アレルギー疾患・遺伝性疾患
13	5/29(月)	1	中田 善規 教授	人体の構造と機能: 循環器系
14	5/29(月)	2	中田 善規 教授	臨床医学: 循環器系疾患
15	6/5(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 消化器系
16	6/5(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 消化器系疾患
17	6/12(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 神経系
18	6/12(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 神経筋疾患
19	6/19(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 眼疾患・耳鼻科疾患
20	6/19(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 感覚器の異常(耳鼻咽喉科、眼科)
21	6/26(月)	1	高橋 謙造 准教授	人体の構造と機能: 生殖器系
22	6/26(月)	2	高橋 謙造 准教授	臨床医学: 婦人科疾患・小児疾患
23	7/3(月)	1	福田 吉治 教授	人体の構造と機能: 皮膚および軟部組織
24	7/3(月)	2	福田 吉治 教授	臨床医学: 皮膚疾患
25	7/10(月)	1	中尾 睦宏 教授	人体の構造と機能: 心理/ストレス
26	7/10(月)	2	中尾 睦宏 教授	臨床医学: 精神疾患
27	7/24(月)	1	内田 俊也 教授	人体の構造と機能: 泌尿器系・内分泌系
28	7/24(月)	2	内田 俊也 教授	臨床医学: 代謝内分泌疾患・腎泌尿器疾患
29	7/31(月)	1	山本 秀樹 教授	全体のまとめと補足
30	7/31(月)	2	山本 秀樹 教授	最終試験

科目名	調査・研究法概論	code number : ID 211	選択	1 単位
-----	----------	-------------------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造 准教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	3日間	授業方法	講義

1. 授業の概要

公衆衛生の実践に必要な素養としての調査研究の全体像を理解する。
MPH取得の上で是非身に付けておくべき、調査・研究法の基礎(Input:情報の入手・管理法、情報の分析法、Output:情報の表出法)について習得することを目的とする。
加えて、本学の特徴である、問題解決型アプローチの実例についても紹介する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 研究を大学院で初めて行う学生が、その概要と流れを把握できるようにする。特に課題研究を進めるにあたっての基礎を修得する。
2. 効率のかつ確実な業務・研究の取り回しは、仕事の成果を左右する。このような理解の上に、幅広い視点から調査・研究法の基礎を学び、実践できることを目標とする。

【行動目標(SBO)】

1. 調査研究を行う意義とその全体像の概要を説明できる。
2. 調査研究に必要な情報について
 - ・適切に情報入手、管理ができる。
 - ・適切に基礎的な集計ができる。
 - ・適切に情報発信する方法が理解できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)授業への積極的な参加(40%)
 - (2)レポート提出評価(60%)
- ただし、無断欠席に際しては、減点の対象となる。

4. 教科書・テキスト

・特に指定しない。

5. 参考書

- ・考える・まとめる・表現する-アメリカ式「主張の技術」- 大庭コテイさち子 NTT出版
- ・論理が伝わる世界標準の「書く技術」「パラグラフ・ライティング」入門 -倉島保美 講談社
- ・アカデミック・スキルズ、佐藤望ほか、慶應義塾大学出版会
- ・わかりやすい医学統計の報告-医学論文作成のためのガイドライン、大橋靖雄ほか、中山書店

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・当日、簡潔な背景説明は行うが、文献類(事前に配布する)は読み込んでおくことが望ましい。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・調査研究に必要な倫理的配慮については、詳しくは公衆衛生倫理学等で学ぶ。
- ・調査研究に用いるデータ、質問票とスケール等について、詳しくは社会調査データ解析概論で学ぶ。
- ・学術論文を読む方法について、詳しくはスタディクリティークで学ぶ。
- ・文献検索の方法について、詳しくは健康医療情報学講義で学ぶ。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/6(木)	1	井上まり子 准教授	はじめに 1. 調査研究をはじめるあなたへ 2. 日常の問題意識をリサーチ・クエスチョンにする 3. 公衆衛生の問題解決型アプローチとは *詳しくは疫学講義で学ぶ
2	4/6(木)	2	桑原 恵介 講師	調査研究の実践 1. 研究計画立案と研究デザイン 2. 調査研究に必要な倫理的配慮:実践者の倫理、倫理審査の心得と手順
3	4/6(木)	3	桑原 恵介 講師	調査研究の実践 3. 何をどう測定するのか。 調査研究に用いるデータ、質問票とスケール
4	4/6(木)	4	高橋 謙造 准教授 桑原 恵介 講師	調査研究の実践 4. 質問票調査の手順 (研究対象のサイズ決定、サンプリング法、フィールドとの交渉法)
5	4/7(金)	1	高橋 謙造 准教授 井上まり子 准教授	調査研究の実践 5. 過去の調査研究紹介 ―教員の実践例から―
6	4/7(金)	2	井上まり子 准教授	情報整理の技術 1. 学術論文の種類と構成 収集した学術論文を読む方法
7	4/7(金)	3	高橋 謙造 准教授	情報整理の技術 2. 研究で得られたデータの管理 データを入力する: Excelシートのデザイン、 ダブル・エントリーと代替法、データクリーニング Excel活用法(関数、ピボットテーブルなど)
8	4/7(金)	4	高橋 謙造 准教授 桑原 恵介 講師	情報整理の技術 3. 情報の整理のために必要なこと ファイルの行方不明をなくす―ファイル名管理法 PDCAを意識した業務管理 論文管理データベースとJournal Alert登録 図書館とデータベースの利用・文献検索の基礎
9	4/10(月)	1	根本明日香 講師	人に伝える 1. 調査研究成果の報告: 論理的思考と文章の書き方、図表の描き方
10	4/10(月)	2	井上まり子 准教授	人に伝える 2. プレゼンテーション方法(学会等での報告)と論文の書き方
11	4/10(月)	3	高橋 謙造 准教授	人に伝える 3. 行政への報告書の書き方, Academic Writing, Paragraph writingの手法

科目名	健康医療情報学	code number : ID 221	選択	1 単位
-----	---------	-------------------------	----	------

科目責任者	桑原 恵介 講師						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 2時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

公衆衛生専門家は、様々な背景を持つ関係者に対して、最新の健康・医療情報について信頼性を踏まえてわかりやすく伝えることが求められる。本講義では、最初の2コマで、公衆衛生専門家として健康・医療情報を取り扱うために必要な知識について、主に講義形式にて授業を行う。3コマ目以降から、主にグループワークによる演習形式にて、(1)検索テーマ設定、(2)文献検索に基づく健康・医療情報の収集、(3)文献管理、(4)情報の批判的吟味、(5)発表を行う。研究の批判的吟味については、「基礎疫学」や「臨床疫学」、「スタディクリティーク」においてより発展的に学習する。また、ヘルスコミュニケーションについては「健康教育学」や「リーダーシップ・マネジメント論」で深く学ぶことができる。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 本科目では、公衆衛生専門家として、最新の健康・医療情報を系統的に収集し、収集した情報を批判的に検討し、まとめ、情報の信頼性を考慮して人にわかりやすく伝えるための基本的な考え方を体系的に理解し、その能力を身につけることを目標とする。

【行動目標(SBO)】

- 健康・医療情報の収集法、文献の管理方法、効果的なプレゼンテーションの方法について説明できる。
- 情報の信頼性や問題点を判断することができる。
- 最新の健康・医療情報について、その信頼性も考慮して、他者にわかりやすく説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

授業中の貢献(40%)、演習(30%)、レポート(30%)により評価し、判定する。

4. 教科書・テキスト

適宜資料を配布する。

5. 参考書

- ・ 中山健夫「健康情報学への招待第2版」丸善出版(2014年)
- ・ 大木秀一「文献レビューのきほん-看護研究・看護実践の質を高める-」医歯薬出版株式会社(2013年)
- ・ 福田洋、江口泰正「ヘルスリテラシー-健康教育の新しいキーワード-」大修館書店(2016年)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。
- ・各講義の受講前に1時間の予習、受講後に1時間の復習すること。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

健康医療情報学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/18(火)	2	桑原 恵介 講師	- 健康・医療情報とは: データから情報へ - 情報の収集・管理・活用 - レポートについての説明
2	4/25(火)	2	桑原 恵介 講師	- 健康・医療情報の信頼性の評価 - 情報に基づく意思決定 - 文献レビューの基本 - 検索テーマの設定演習
3	5/2(火)	2	桑原 恵介 講師	文献検索演習1(日本語による検索): 医中誌Web、CiNii
4	5/9(火)	2	桑原 恵介 講師	文献検索演習2(英語による検索): PubMed、Web of Science、Scopus
5	5/16(火)	2	桑原 恵介 講師	- 文献の管理方法: 紙媒体、エクセル、Endnote等の活用 - 文献管理演習: エクセルの活用
6	5/23(火)	2	桑原 恵介 講師	- 情報を批判的に吟味するための要点: 研究デザイン、偶然、バイアス等 - 実例に基づく、情報の批判的吟味の演習
7	5/30(火)	2	桑原 恵介 講師	- プレゼンテーションのポイント: ヘルスリテラシー、ヘルスコミュニケーション、ナラティブ情報 - プレゼンテーション演習: 最新の健康・医療情報の説明
8	6/6(火)	2	桑原 恵介 講師	- グループごとの成果発表と受講生間評価 - 全体のまとめ

科目区分：

共 通

(専門職学位課程)

科目名	インターンシップ	code number : ID 351	選択	1 単位
-----	----------	-------------------------	----	------

科目責任者	山岡 和枝 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	(個別設定)	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	実習

1. 授業の概要

実際の公衆衛生活動を行う現場(国際機関、行政機関、NGO、企業・団体等)において一定期間就業体験を行う。その実務を通じて公衆衛生に必要な5つの領域の知識の定着度を確認し、不足を補う。また、MPHのコンピテンシーである情報処理能力とコミュニケーション能力、専門家としての職業意識、計画策定能力、システム思考などを鍛える。チームでの仕事やプロジェクトに実際に関わる中で実践能力を向上させる。

公衆衛生にかかわるステークホルダーの実社会での機能と役割について学び、社会での公衆衛生の問題解決にインターンシップ先と共に取り組む。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. インターンシップ(学生が在学中に、国際機関、行政機関、企業・団体等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと)に参加することにより、講義の中で学んだ知識を活かし、より実践的な問題解決能力を高め、公衆衛生の専門職にふさわしい素養(コンピテンシー)を身につける。
2. 実務の現場において公衆衛生の基本的な実務(地域や職場の理解、チームでの勤務、プロジェクト管理、各方面へのコミュニケーション、モニタリング能力など、)の実践能力を向上させる。

【行動目標(SBO)】

1. より実践的な問題解決能力を高め、公衆衛生の専門職にふさわしいコンピテンシーを身につけることができる。
2. 実務の現場において公衆衛生の基本的な実務の実践で必要な事項について説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 現地での担当指導関係者による評価(50点)
- (2) 本人が提出するインターンシップ終了後報告書(50点)

4. 教科書・テキスト

- ・各インターンシップ指導教員より指示あり

5. 参考書

- ・各インターンシップ指導教員より指示あり

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・実習前に事前研修の一環として、各自実習先に対する機能や役割について情報を収集する。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・本インターンシップへの参加の費用(渡航費・滞在費・海外旅行傷害保険料等)は基本的に各自の負担である。
- ・レポートを提出し、実習報告会で発表する。レポートに対し、解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
				1. 授業の流れ (1) 履修を目指す大学院生は、過去の経験や現在の関心をもとにしてアカデミックアドバイザーと相談のうえ、インターンシップを実施する受け入れ機関を探す。 (2) 科目責任者である研究科長はそのインターンシップ先の分野や専門性を検討したうえで、教員の中から個別のインターンシップ担当者を選定する。選定された個別のインターンシップ担当者はインターン先との連絡や事前学習、現地での活動、安全と危機管理に対する窓口、受け入れ先との大学側の窓口となり、大学院生のインターンシップを支援する。 (3) 各大学院生はインターンシップ担当者らと事前学習を行い、インターンシップ開始後の作業を円滑に行う準備をする。 (4) インターンシップ実施中は中間報告などにより随時インターンシップ担当者への連絡を行う。 (5) インターンシップ終了後には最終報告書を提出する。 (6) 受け入れ先から評価書を得る。 2. 想定される受け入れ先 ※ 期間は原則として通算2週間以上とし、夏期または冬期休暇期間中に実施する。 国際機関、中央省庁・地方自治体などの行政機関、国際協力に関する諸機関(国際協力機構(JICA)など)、NGO・NPO、公衆衛生に関連する民間企業など 3. 単位認定の条件 (1) 研究科が認める実習先であったこと (2) 事前準備を十分に行っていると認められていること (3) インターンシップ先からの事後評価が研究科の基準を満たしていること (4) 本人の成果と報告書の提出とインターンシップ担当者による評価を得られること 4. 履修登録・単位認定の時期について 履修登録は、インターンシップ開始前までに必ず教務課へ諸手続きを行うこと。単位認定は、インターンシップ終了後、最も近いセメスターのみ有効である。夏休みに実習を行った場合は、後期期間中に報告書の提出を行う。同様に、春休みに実習を行った場合は、次年度前期期間に報告書の提出を行う。

科目区分：

共 通

(専門職学位課程)

科目名	課題研究	code number : ID 500	必修	6 単位
-----	------	-------------------------	----	------

科目責任者	各指導教員					
配当年次	1・2年次	配当学期	通年	曜日・時限	(個別設定)	授業方法 演習

1. 授業の概要

特定の課題について個別に研究の実践、指導を行い、現地でのフィールドワーク、調査、情報収集、分析等を経て研究報告書を作成する。実習先での現場実習や現場見学を含む場合には実習報告書を提出する。課題研究を指導する教員(学内)・指導者(学外)を定め、受講生は研究指導を受ける。

2. 授業の到達目標

国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して、各々の専門領域で指導的立場で問題解決型の対処ができる、すなわち現場での実践に資する高度専門職業人養成の集大成として課題研究を行う。
到達目標は、講義・演習科目を通じて学んだ知識の体系化を図ることにある。各人材養成像に沿ったコースワークの後半期間を用いて、より専門的・実務的な研究課題として取り組み、学んだ知識を実践の場に還元できる能力を身に付けるものである。この高度専門職業人に資する実務適応能力を身に付けるため、プラクティカルな要素が有効であると考え、課題研究の期間内に学習手段の一つとして短期間の現場実習、現場見学、専門家(指導教員)との協働、フィールドワーク、シミュレーションワーク等を含めるものとする。

3. 成績評価の方法および基準

- ・課題研究指導教員による指導のほか、授業計画に示す各報告会の前後においてグループ指導として複数の専任教員による評価、指導を行う。審査は各グループ指導での専任教員が担当グループの審査を行う。外部での実習・現場調査を含む場合は報告書と受け入れ先の評価結果も審査の対象となる。
- ・コンピテンシーを満たしていることを前提に発表会ならびに課題研究報告書により評価する(100%)

4. 教科書・テキスト

- ・各指導教員より指示あり

5. 参考書

- ・各指導教員より指示あり

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・各指導教員より指示あり
- ・課題研究の達成に必要な予復習の時間を十分に確保するように努めること。

7. その他履修上の注意事項

- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
授業計画欄に記載のある分野別のテーマ毎に研究指導教員と学生間にて授業日程(指導日程)を個別に設定する。 課題研究に関する中間報告会と最終報告会を実施し、報告内容を専任教員が評価を行う。 ○オリエンテーション : 平成29年 4月 5日(水) ○合同ガイダンス : 平成29年 4月20日(木) ○課題研究テーマ提出 : 平成29年 7月 3日(月)～ 7日(金) 予定 ○研究計画・中間報告会 : 平成29年 7月27日(木) 予定 ○中間報告会 : 平成29年10月12日(木) 予定 ○最終報告会 : 平成29年12月14日(木) 予定 (上記日程に関しての詳細は別途指示)				
【疫学・臨床疫学の課題研究/指導教員:矢野榮二・谷原真一・福田吉治・桑原恵介・野村恭子・大脇和浩(非常勤講師)】 講義・演習で学んだ臨床疫学研究の知識を用い、関心のあるテーマで研究を行う。実際にPubMedやコクランライブラリーを用いて、系統的レビューを行い、研究仮説を立てる。研究対象は自分の持つデータから厚生労働省統計局ホームページで入手できる二次データまで広範囲に扱い、データセットを作成するという実務と同様の作業を経験する。統計学的な処理・結果の解釈を加えたのちに研究報告書としてまとめる。従って、本課題研究では研究報告書と作成したデータセットをその研究成果とする。 なお、本課題研究は、臨床疫学専門家を志す学生を対象とする。				
【生物統計学の課題研究/指導教員:山岡和枝・松浦正明・根本明日香】 講義・演習で学んだ生物統計の知識を用い、臨床研究等、医薬分野のテーマについて、研究計画・解析計画をたて、データを収集し、データの特性に応じた要約、解析を行い、報告書としてまとめるまでの一連の研究を行う。 課題においては、解析は統計ソフトを用いて行う。自分で収集したデータを課題研究対象とする。一連の解析結果を発表し、質疑応答の結果をふまえ、統計解析報告書を作成する。データ解析の内容及びそれぞれのテーマに応じ作成した統計解析報告書をもとに研究報告書を作成する。従って、本課題研究では研究報告書と統計解析報告書(解析結果)をその研究成果とする。研究解析報告書を作成するまでの一連の過程は、臨床試験に係わる実務家(臨床試験統括医師、臨床試験看護師、解析実務家)が理解し報告書作成の技能を修得することが必要であるが、一方で臨床試験におけるそれぞれの職能に応じた役割・責任や、他職能との連携の重要性についても作業プロセスを通じて身に付ける。				
【行動科学・健康教育学の課題研究/指導教員:中尾睦宏・福田吉治】 講義・演習で学んだ行動科学・健康教育の知識を用い、下記のような現実には発生している問題(テーマ)に対して実際の情報・活動に触れながら研究を行う。 行動科学系テーマ:日本の自殺予防対策の現状と将来戦略 日本では1997年より自殺者数が年間3万人を超える状況が続いており、その対策は公衆衛生学的に重要な問題となっている。国立精神神経センターにある自殺予防総合対策センターでは地域での取り組みや医療機関での取り組みについて情報の収集・分析をしているので、その活動に参加して課題研究(実習を含む)を行う。従って、本課題研究では研究報告書(実習報告書も含む)をその研究成果とする。 なお、本課題研究は、行動科学・健康教育の専門家(メンタルヘルス)を志す学生を対象とする。 健康教育学系テーマ がん、循環器疾患等、今日の多くの疾病が、個人の生活習慣を原因または背景として発症する。したがって、個人の生活習慣の改善や行動変容が疾病予防と疾病管理の基本となる。また、個人の生活習慣には、個人の社会経済的状況、個人のおかれた環境(家庭、職域、地域等)、さらには、社会の制度やシステムが強く影響している。本課題研究は、個人のみならずよりマクロな視点を踏まえて、個人の行動変容を促し、疾病の予防と管理のための健康教育・ヘルスプロモーションの理論と手法を、地域や職域等での実践を通じて習得することを目的とする。従って、本課題研究では研究報告書をその研究成果とする。 なお、本課題研究は、行動科学・健康教育・ヘルスプロモーションの専門家を志す学生を対象とする。				
【社会疫学の課題研究/指導教員:福田吉治・井上まり子】 講義・演習で学んだ社会疫学の知識を用い、健康の社会的格差とその縮小ならびに公衆衛生の向上を課題とした研究を行う。特に、(1)健康の社会的格差の状況と背景の把握ならびに機序の解明を基にした政策の立案・実施・評価、(2)非正規雇用者、高齢者、一人親家庭等の個別集団の健康問題とその解決、(3)健康の地域格差に関連する医療・保健等のヘルスケアの質的および量的評価に基づく政策立案、(4)健康の社会的格差を縮小させるための行動経済学の応用、などを個別テーマとする。本研究課題では、エビデンスの蓄積だけでなく、具体的な政策立案から評価までの過程を含めた研究報告書を研究成果とする。 なお、本課題研究は、医療、地域保健、産業保健等を含む保健行政と実務の専門家を志す学生を対象とする。				

【医療管理学の課題研究/指導教員:中田善規】

講義・演習で学んだ医療管理や医療経済、医療経営の知識を用い、帝京大学医学部附属病院での実習を通じて、管理経営者が日常直面する医療管理上の問題点を実際に体験し、その解決策を優先順位を付けて提案できる能力を身につけることを目標とする。さらにその解決策のコストとベネフィットを理解し、組織運営上の最適解を決定し、その具体的な実行方法まで踏み込んで考えられるようにする。こうした経営分析手法の科学的根拠となるのは、医療経済学の講義で学んだミクロ経済学や医療管理学の講義で学んだ組織行動学などが中心となる。こうした病院管理者の活動に参加して課題研究を行う。従って、本課題研究では研究報告書(実習報告書も含む)をその研究成果とする。

なお、本課題研究は、医療管理(医療経営、コメディカル部門管理、病院事務管理)の専門家を志す学生を対象とする。

【保健行政の課題研究/指導教員:谷原真一・福田吉治・高橋謙造】

講義で学んだ保健医療政策の知識を用い、日本の医療・保健・福祉政策の現状を分析し、問題を抽出し、問題解決策の立案・実施ならびに評価(PDCサイクル)を通じて課題研究を行う。具体的には、高齢者の医療制度・介護保険制度、生活習慣病対策、母子保健対策等をテーマに設定し、指導教員が関わっている自治体や施設をフィールドに、医療レセプト、国民生活基礎調査等の公的データを利用した分析と政策研究の実務を経験しながら研究を行う。従って、本課題研究では研究報告書をその研究成果とする。

なお、本課題研究は、保健行政の専門家を志す学生を対象とする。

【国際保健の課題研究/指導教員:高橋謙造・井上まり子・堀内清香】

国際的課題となる公衆衛生の問題を認知して、その課題の解決のために取り組む方策を学び、実務遂行上生じる問題解決能力を養う。国際保健に関する講義や演習を履修して知識と議論を深めることを推奨する。

課題研究のためには実務に即した特定のテーマを設定して調査研究を行う。フィールド調査を通じた情報収集、国際的な公的統計分析、政策関連資料や学術論文を活用して現状把握と情報分析に務める。調査実施に際しては、本学の学術提携校(インドネシアのアトマジャヤ大学、インドネシア大学、フィリピン大学マニラ校、タイのチュラロンコン大学・マヒドン大学など)と協力して現地調査研究を行うこともできる。課題研究期間中に国際保健の関連機関でのインターンシップ(別途履修)を行い、実務経験の内容を基盤にした課題研究報告書を成果とすることも可能である。

なお、本課題研究は国際保健の専門家を志す学生を対象とする。

【地域保健学の課題研究/指導教員:高橋謙造・谷原真一・福田吉治・井上まり子・堀内清香・石崎達郎(非常勤講師)】

講義・演習で学んだ、実践において生じた疑問や仮説に対して行うPractice based researchの方法論を用いて、(保健、福祉などを含む広義の)地域医療の現場で発生している臨床あるいは社会医学的テーマについての研究を行う。そのことにより、学習者が将来業務を行う中での研究テーマに気づき、それについての解明を現場で自らが行え、その成果を情報発信する能力を取得することを目指す。また、Practicebased researchは研究の端緒から主体的に行えることから、研究における自己研鑽能力を涵養することも主眼とする。

研究テーマは、本来的には学生自身がこれまでの経験から得られた研究仮説・疑問を基に学生自身のデータに対して行う。しかしながら、当課題研究においては、①実践を通じて得られた疑問や仮説を、2次的データを使用して解明する、②指導教員との討論のもとに、提供するデータについての疑問や仮説を主体に作成し解明する、これらのタイプの研究も含める。

本課題研究は、将来においても主体的にPractice based researchを実践する地域保健の専門家たる志を持つ学生を対象とする。

【医療情報の課題研究/指導教員:中田善規】

講義・演習で学んだ各分野の知識を用いて、情報の観点から公衆衛生の向上をめざす研究を行う。「医療と情報」の分野が扱う主題はさまざまに多岐にわたる。例えば、医療のIT化におけるシステム構築やインフラのあり方、個人のプライバシーを侵害しない医療情報に特化したセキュリティ施策、医療情報管理のための規格とメタデータの標準化、情報資源をナレッジ化し役立てるための実践的コミュニケーションの手法、公衆衛生の実践や医療情報普及のためのメディア戦略など、が挙げられよう。本課題研究では、これまでの経験から得られた問題意識を実践的なテーマとして絞り込み、先行研究のレビューを行い、実証的研究のプロセスを経て評価・勧告につながるような実践的研究としてまとめることを目指す。

なお、本課題研究は、医療情報の専門家を志す学生を対象とする。

【環境衛生の課題研究/指導教員:原邦夫・矢野榮二】

講義や実習で学んだ環境衛生の知識や技術を用い、既に基礎となるデータが一定ある下記の3領域のテーマの中から選択し、関連論文検索・レビュー、研究仮説設定、データ解析、結果をとりまとめ、研究報告書を作成する。従って、本課題研究では研究報告書をその研究成果とする。

なお、本課題研究は、環境衛生の専門家(作業環境測定士受験希望者も対象)を志す学生を対象とする。

1) 大気汚染物質の動態・大気汚染の健康影響

国内もしくはタイ・バンコクにおける大気汚染測定データを用いて汚染物質の濃度と変動に影響を与える要因を解析する。また行政的な保健衛生統計や医療機関のデータを用いて、大気汚染との関係を調べる。可能であれば現地での環境測定や健康影響調査にも参加する。

2) 産業有害物質の健康影響

国内鉛取り扱い作業場の作業環境測定データと健診データまたは中国石綿取り扱い工場の作業環境測定データと作業者の長期の死因観察データとの関連を調べる。可能であれば現地の調査にも参加する。

3) 事業所の健康管理データ

10年以上の長期に観察されている事業所の健康診断データを経時的に観察し、労働者の就業・雇用状況と生活習慣の影響を、年齢、コホート、時代モデルを用いて解析する。

【産業保健の課題研究/指導教員:矢野榮二・谷原真一・原邦夫・福田吉治】

講義や実習で学んだ産業保健の知識や技術を用い、指導教員と相談し個別にテーマ設定し課題研究を行い研究報告書としてまとめる。また、希望者に対しては、企業の工場内の労働衛生管理・産業保健担当部署における実際の作業現場で実務を見学、可能な範囲で自ら参画し、現場における実務を経験・学習する。従って、本課題研究では研究報告書(実習参加者は実習報告書も含む)をその研究成果とする。

なお、本課題研究は、産業保健の専門家(労働衛生コンサルタント受験希望者も対象)を志す学生を対象とする。

注) 本シラバスに掲載されていない専任教員は、グループ指導の指導教員担当。